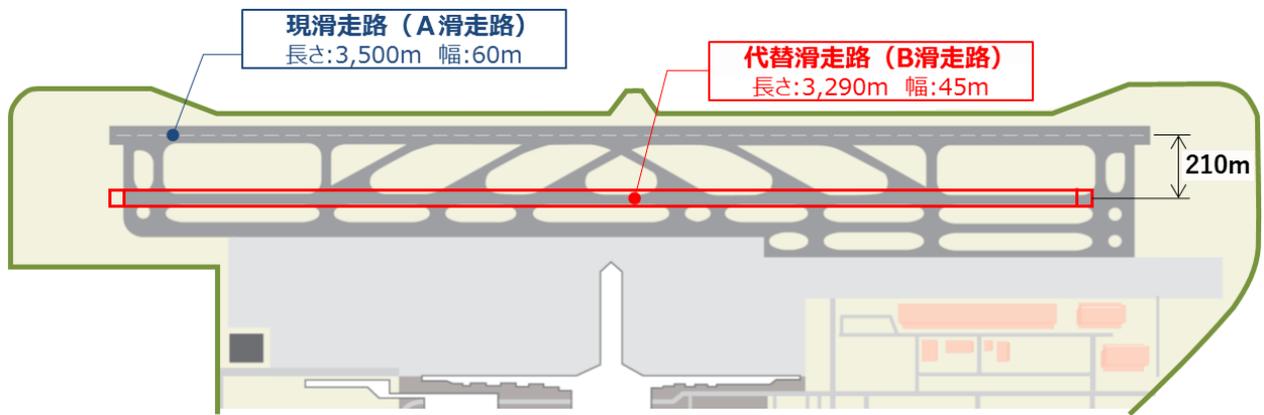
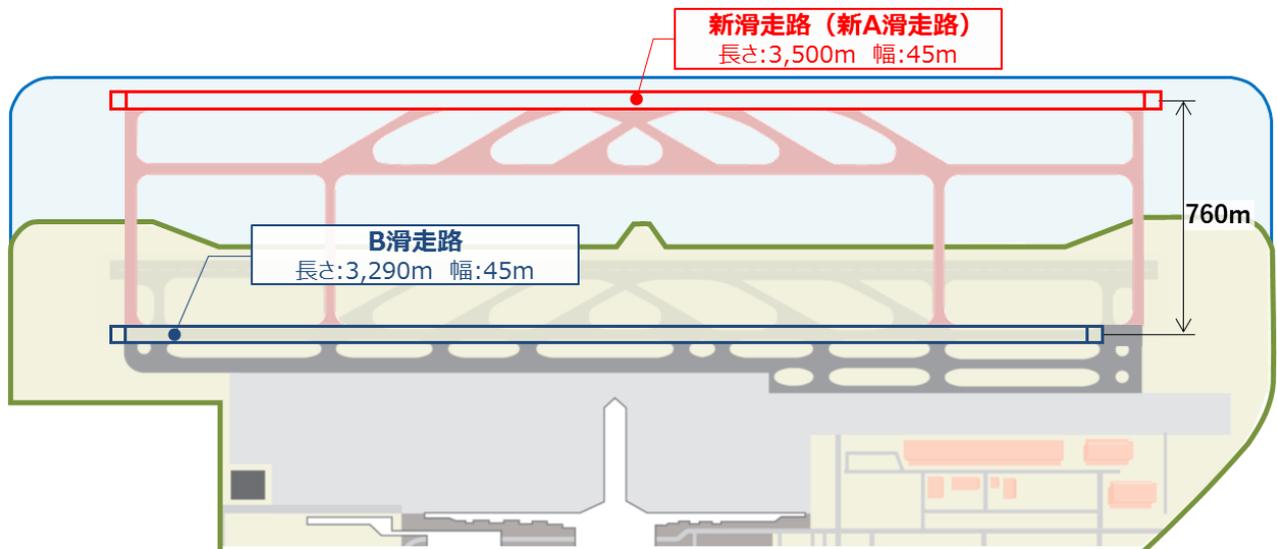


【第1段階】（暫定形）



【第2段階】（将来形）



（出典：中部国際空港将来構想推進調整会議『中部国際空港の将来構想』）

中部国際空港の第二滑走路の整備を始め とする機能強化の早期実現に関する要請書



2022年6月

中部国際空港第二滑走路建設促進期成同盟会

中部国際空港の第二滑走路の整備を始めとする機能強化の早期実現について

中部国際空港は、2005年の開港以降、中部圏と国内外との「人の交流」、「産業のサプライチェーン」を支える重要な社会インフラとして大きく貢献しています。

中部国際空港沖では、名古屋港から発生する浚渫土砂を処分するための新たな埋立地の整備が、国土交通省の港湾事業として進められており、2021年5月には埋立が承認されました。現在は、護岸基礎工事が実施されているところであり、将来、第2段階の新滑走路としての活用が期待されます。

中部国際空港は滑走路が1本であるため、以下のような課題があり、これらの課題を解決し、国際拠点空港としての機能を十分に発揮するには、2本の滑走路の整備が不可欠です。そのため、2021年12月14日、地域において『中部国際空港の将来構想』をとりまとめ、第1段階として、2027年度を目途に現空港用地内での第二滑走路の供用を目指しています。

【課題】①将来の航空需要への対応

②完全24時間運用の実現（滑走路メンテナンス時間の確保）

③滑走路の大規模補修への対応

④不測の事態による滑走路閉鎖リスクの回避

⑤災害時におけるバックアップ機能の確保

⑥魅力にあふれ発展する地域への対応

一方足下では、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を大きく受け、中部国際空港における航空機発着回数及び航空旅客数は大きく落ち込み、2期連続赤字となるなど大変厳しい経営状況が続いております。

しかしながら、この地域では、2022年のジブリパークの開業、2026年には第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）の開催が予定されるほか、世界遺産である白川郷・熊野古道、名古屋城など、外国人にも人気が高い観光資源が豊富に存在しています。さらに、リニア中央新幹線の全線開業により、世界最大規模となる人口7千万人のスーパー・メガリージョンが形成され、そのセンターを担うことになるこの地域は、観光だけでなく、経済活動の視点からも、国内外からこれまで以上に多くの人を呼び込むことができるポテンシャルを有しており、中長期的には、航空需要が確実に伸びていくことが見込まれております。

また、我が国においては、2020年10月に、「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、さらに2021年4月には2030年度の温室効果ガスを2013年度比で46%削減するとの新たな目標が示されたところです。中部国際空港では2021年5月「セントレア・ゼロカーボン2050」を宣言し、空港のゼロカーボンに向け、空港脱炭素化推進計画の策定の他、国土交通省航空局と連携したSAF導入の実証実験や再生可能エネルギーの導入といった具体的な施策の検討も進めております。

国におかれては、第二滑走路の整備を始めとする機能強化の早期実現に向け、次の各項目について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 空港西側の隣接地等に新たな埋立地を整備する「中部国際空港沖公有水面埋立事業」について、環境に配慮しながら、着実な進展をお願いします。
- 2 『中部国際空港の将来構想』の第1段階である2027年度の第二滑走路の供用開始に向けた環境影響評価に関する手続や、現滑走路の大規模補修等が迅速に進められるよう、必要な支援を行ってください。
- 3 第二滑走路の建設にあたり、空港建設時と同様に十分な財政支援をお願いします。
- 4 新型コロナウイルス感染症により甚大な影響を受けている航空需要の回復に向け、観光を含めた国際的な人の往来の本格的な再開を着実に進めてください。
- 5 「セントレア・ゼロカーボン2050」の他、現在検討中の各施策の実現に向け、財政支援を行ってください。
- 6 東海三県始め中部地域の主要都市、観光地から空港への道路・鉄道等のアクセスの充実に向けて、必要な措置を講じてください。

2022（令和4）年6月3日

中部国際空港第二滑走路建設促進期成同盟会

会 長	愛知県知事	大村 秀章
副会長	岐阜県知事	古田 肇
副会長	三重県知事	一見 勝之
副会長	名古屋市長	河村 たかし
副会長	名古屋商工会議所会頭	山本 亜土
副会長	一般社団法人中部経済連合会会長	水野 明久
参 与	中部国際空港株式会社代表取締役社長	犬塚 力